

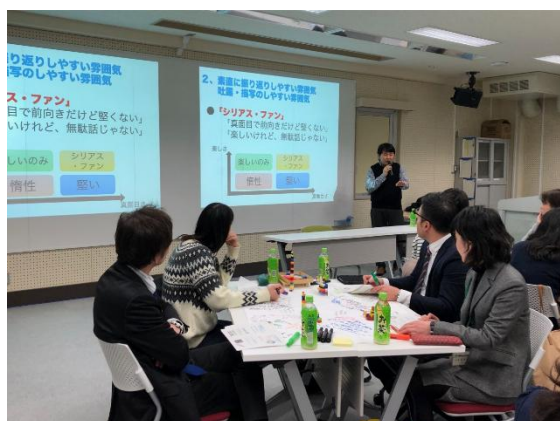
“NITS カフェ in 松江”

「教員研修・校内研修をどうつくるか」

(立教大学・町支大祐先生 講義・ワークショップ)

平成31年2月14日(木)、島根大学教職大学院は、講演会・ワークショップ「教員研修・校内研修をどうつくるか」を、独立行政法人教職員支援機構の支援を得て“NITS カフェ in 松江”として開催しました。講師には、立教大学の町支大祐先生をお招きしました。

全体は前半・後半の二部で構成されました。前半は「リフレクション」を促す教員研修の方法論に関するもの、後半は「探究」活動を指導しうる教員集団形成に関するものでした。講義とワークを細かく繰り返すかたちで進行され、知識が体験をとおして定着するように、またまさにリフレクションが喚起されるように工夫されていました。前半の流れは、チームビルディングのワーク、教員研修に関する動向の講義、レゴを用いたリフレクションを体験するワーク、教員研修の場の設定の要点に関する講義でした。後半は、ケースメソッド(実際の出来事を記述したケース教材をもとに自分が当事者ならばどうするかを集団で討議する教授法)を実際に体験し、その上で探究活動を組み込むカリキュラムマネジメントについてグループ協議を行いました。



参加者は、島根大学教職大学院 M1 生のほか、島根県教育委員会・出雲市教育委員会の指導主事、島根・鳥取の教員の皆さん、島根大学教員の全 47 名でした。

参加者の声として、「レゴを用いたリフレクションワークやそれに関する講義が新鮮で、且つ非常に腑に落ちるものであった」、「教員研修を設定するときのポイント(寄り添う他者、シリアス・ファン、ポジティブな面に目を向ける等)がわかった」、「実際の校内研修で活かしたい」などが聞かれました。

学年末の平日という多忙な時期であったにもかかわらず、多くの参加者を得ることができ、教師教育の新たな動向に関する学びの場・交流の場を作ることができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

(文責・丸橋静香)